

TSH, T_4 両者測定で発見された10例中6例は TSH 高値, T_4 低値を示したが, 4例は TSH 高値, T_4 正常であり T_4 のみのスクリーニングでは見逃されていた症例であった。

2. TSH によるスクリーニングにおけるカットオフ値の比較検討

1981年4月から12月までにスクリーニングを行った15, 384例についてカットオフ値としてパーセントイルと絶対値を用いた時の再採血率と発見率を比較した。

第1回目測定のカットオフ値すべて上位3パーセントイルとした。

第2回目測定のカットオフ値が3パーセントイルでは123例(0.80%), $10\mu\text{U/ml}$ では50例(0.33%), $15\mu\text{U/ml}$ では8例(0.05%)が再採血および精査の対象となった。

第2回目測定のカットオフ値を3パーセントイルおよび $10\mu\text{U/ml}$ とすると5例のクレチン症が発見されたが, $15\mu\text{U/ml}$ とすると4例しか発見できず1例は見逃されることになった。

以上の結果から TSH 測定によるスクリーニングのカットオフ値は第1回目測定を3パーセントイルとし, 第2回目測定では3パーセントイルか $10\mu\text{U/ml}$ とするのが適当と考える。

3. TSH-EIA によるクレチン症のマス・スクリーニング

成瀬らにより開発された TSH-EIA の基礎的検討を行った結果, 測定感度, 測定値の再現性, RIA との相関は良好であった。

新生児18, 760例のスクリーニングを行った結果, 5例のクレチン症を発見した。これは RIA と完全に一致しており, EIA は RIA に匹敵するスクリーニング法であった。

東北地区のスクリーニング実施状況

東北大学医学部小児科 多田 啓也
館田 拓

昭和56年1月より12月末までの東北地区のクレチン症マス・スクリーニング実施数は, 6県合計で136,484名であり, 10名のクレチン症が発見・治療されている。昨年度の報告をあわせると, 総数233,243名にスクリーニングを実施し, 内20名のクレチン症(1/11,700名)を発見している。測定法はおもに TSH の測定がおこなわれているが, 福島県では昭和56年1月より, TSH・ T_4 同時測定によるスクリーニングが実施されている。

各治療施設を受診した時の臨床症状を調査できたのは13例である。内6名は, 体重増加不良, 低体温などの症状を示していたが, 7名は無症状であった。又初診時甲状腺ホルモンの低下が認められたのは8名であり, 全例直ちに治療が開始されている。5名は初診時 TSH の著明な上昇を認めるもの

の、甲状腺ホルモンは正常範囲内であった。内1例はその後甲状腺ホルモンの低下が証明されたことより、又3例はシンチグラムにて異所性甲状腺が証明されたことより治療が開始されている。

治療は、家族の判断により生後7カ月以降治療を中断した一例を除き、Thyradin S5~7 γ /kg/dayの投与量にて甲状腺機能もよくコントロールされているが、一例のみ1才時点で13.2 γ /kg/dayと比較的大量の投薬を必要とする症例もみられた。

DQは8名について測定されている。3名は2才の時点で津守・稲毛式で測定しており各々124, 88, 81であった。又5名は1才の時点で測定しており、各々107, 92, 90及び2名が正常と報告されており、治療はおおむね順調におこなわれていることが確認された。

御協力いただいた主治医の方々(敬称略)

岩手医科大学：高砂子祐平

山形大学：横山 新吉

福島医科大学：田沼 悟

原町市立病院：平田 慶肇

一次スクリーニングの結果報告 までに要する日数の統計的調査

東京女子医大第二病院小児科 村田 光範
東京都予防医学協会 松本 勝

目 的

濾紙血液を用いたTSH, T₄, TBGなどの測定法がより短時間で施行できるようになったとしても、不良検体が多かったり、検体の受け取りまでに多くの日数を要したのでは、検査結果の迅速な報告は不可能である。そこで、昭和56年4月から57年1月までの検体95,732件につき、一次スクリーニングの結果報告に要した日数につき、各種の検討を加えた。分析は、受け付けた検体に記載してある資料をコンピュータに入れて行った。

結 果

1. 検査センター受け取り時の不良検体

総数は227件で、全体の0.24%を占め、内訳は、①採血日が生後4日以内であったもの、52件。②採血量が不足していたもの。174件、③記載に不備のあったもの。2件であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 56 年 1 月より 12 月末までの東北地区のクレチン症マス・スクリーニング実施数は、6 県合計で 136,484 名であり、10 名のクレチン症が発見・治療されている。昨年度の報告をあわせる、総数 233,243 名にスクリーニングを実施し、内 20 名のクレチン症(1/11,700 名)を発見している。測定法はおもに TSH の測定がおこなわれているが、福島県では昭和 56 年 1 月より、TSH・T4 同時測定によるスクリーニングが実施されている。